

会報 八丈島三根会



八丈島と三根と私達！

三根会ホームページ

八丈島三根会



<http://mitsunekai.life.cocan.jp>



第 35 回八丈島三根会開催日発行

第二の故郷「八丈島・三根」の思い出

辻野具成（昭和三十五年から昭和四十八年在勤）

昭和三十五年春から、十四年間の長期にわたる八丈島での生活の思い出は、私の一番の宝と考えています。昭和三十五年の年頭、当時の町立富士中学校阿部雄吉校長先生から任用のお電話を頂き、保健体育科の教師として着任いたしました。

町立富士中学校は、各学年「松・竹・椿」組と多くの生徒が在籍していました。私の在任期間には、阿部雄吉・松代翼・松代恒信・高橋惇・奥山憲春校長先生が、学校経営に携わっており、教師としての任務について学びに携わらせていただきました。

ちなみに、この間に体育館（三根小学校旧校舎を活用）は昭和三十八年に建設、校庭の西側にあつたプールは昭和四十四年に設置されました。

以来、島の人々の人情溢れる愛情に支えられ、家族をもたせていたとき（長女は三根小へ進学、次女はむつみ保育園へ入園）と、当時を思い起こしてみます。なつかしくかつ、有りがたい生活を過ごさせていたいただきました。

ここ八年ほど毎年ご縁をいただき、卒業生の還暦のお祝いの会や、町立三根小学校・大賀郷小学校・三原小学校における「道徳授業地区公開講座」や、校内研修会の講師としてお招きをいただき、八丈島の人々や風景に触れさせていただき、在任時を思い出しては、私を育ててくださった三原小学校での研修会にお招きをいただき、今年も一月に、三原小学校での午前中は歩いて神湊西・神湊東・日目は午後便での帰京でしたので、午前中は歩いて神湊西・神湊東・赤金・洋望・東畑・中平・新道・護神・桜平・明治橋・新田・川の平・川向・矢崎など、当時の在校生諸君のお宅を想像させていた

卒業生と、当時の保護者の方からお声をかけていただきました。（途中お二人の方）

八丈町立富士中学校での思い出とは、何といっても富士中学校校舎の光景です。背後の西山（八丈富士）に支えられている校舎には強い印象と、立派な光景の思い出は深いものです。

庭での授業などに関わっており、この光景は極めて立派な印象であります。

因に、八丈島三根とは、西山（八丈富士）・東山（三原山）・神止山と三山の根元となる地域から「三根」と名付けられたと教えて頂きました。

また、「八丈シヨメ節」に八丈島を代表することばである、「情け島」こそ、島民の生活の大基盤と強く実感しています。保護者や地域の皆さまの学校への支援は、正しく「学地連携」の基盤と実感しております。保護者や地域の皆さまの学校行事などへの参加・協力（PTA）は、委員は各部落毎に、学校を支援する委員がおりました。学校・家庭・地域が一体となつて生徒の成長への取り組みの証でしょう。

私は、三根小学校運動部の一部落対抗リレーには、毎年走らせていたとき、夜は部落ちの懇親会、隣近所が一緒になつて、運動会が終わったとき、深い相手を思いやり、大切にしようとする、互いに協力し、深い相手を思いやり、大切にしようとする、取り組みで、深い相手を思いやり、大切にしようとする。

一方、生徒諸君の「勝る気持ちへの努力」も、在任中の大変大きな印象です。学校行事や部活動は、もちろんですが、四大陸上競技記録会や、四中駅伝大会を始め、各部活動の対抗戦など、自分の力を発揮する取り組みのやる気は今もいろいろと、昭和四十一年の秋からですが、「校内マラソン大会」（男子・富士中）町役場（往復）・女子・富士中）八丈島会館（往復）では、町を湧かす頑張りを見せてくれました。また、男子四中駅伝大会では、昭和四十七年度・四十八年度と二年続けての優勝は、生徒諸君の頑張り忘れられない取り組みでした。

この度「会報 八丈島三根会」への原稿のご依頼いただき、富士中学校在任中の「学校要覧」・「卒業アルバム」・「学年だより」などを開いて見ました。更なる思い出や有りがたみを強く感じさせられました。私、十四年間の八丈町立富士中学校での思い出を、ただ綴り続けました。昔を思い出せば、島を愛する気持ちの一途になつていただけ、幸い存じます。卒業生の皆さまのご健康と、皆様の三根会の益々のご発展と、まともとさせて頂きます。

奥山熊雄さんの思い出

長山 育生

町政施行記念の歩み

浅沼

高三

「月夜に提灯見たことない。布団の三角見たことない。坊主のちよんまげ見たことない。畑の蛤見たことない。海の牛蒡大根見たことない。ソラキナヤレキナヤレ。」

今から三十年近く前、熊ちゃんの太鼓を初めて聴いた時に衝撃を受けたのはその叩いている姿はもちろんです。太鼓の間にこのお囃子でした。それまで八丈太鼓のサークルにいくつか入っていましたがこんな文句を挿入する人に会ったことがなく、とても新鮮に感じました。昔はこんな風に叩いていたのかな、と興味を持ちました。

それからしばらくは熊ちゃんにはお会いしていませんでしたが、熊雄さんと共に宴会に呼ばれて太鼓を叩く人組の内一人が島を離れてしまい、その代わりにお誘いを受けて一緒に活動するようになりました。

熊ちゃんは僕のことをとてもかわいがってくださって、島外に行かれる時も下拍子として指名してください、あちらこちらにお供させていただきました。すでに八十歳を超えていらっしやたのですが、ご自分のことはすべておやりになって、時間に余裕を持ち、ホテルを出る時や本番前でも、身支度をまず整えてからゆっくりとする方でした。そんな時「お客さんの都合で早くなることがあるからね」と笑顔で答えてくださいました。

「太鼓のことは太鼓に聞け」が口癖で、出先で用意された太鼓に文句を言うことは一切なく、いつもその太鼓の一番いい音を出されていました。ちなみに熊ちゃんは野菜作りの名人でもあり、いつかスイカの収穫時期の目安を聞いたところ「スイカのことはスイカに聞け」と言われました。

熊ちゃんは学校に上がる前に近所のバンマから太鼓や歌、踊りを教わったそうです。江戸時代生まれのバンマは、教えるときすぐに覚える幼少の熊ちゃんをとてかわいがってくださったようです。だから彼が身につけた芸はそのほとんどが学校に上がる前に身につけたものようです。

八丈太鼓も今では勇壮で力強い叩き方が主流で大変魅力があります。熊ちゃんのように着物を着て足を閉じ歌や囃子を入れる優雅な八丈太鼓も素敵だと思えます。要は自分になり合ったスタイルを楽しめばいいんだと最近は思うようです。熊ちゃんありがとう。

昭和二十九年十月一日、町村合併促進法により三根村・檉立村・中之郷村・末吉村・鳥打村の各村が合併して「八丈村」となり翌三十年四月一日、八丈村・大賀郷村・宇津木村の各村が合併して「八丈町」となりました。

昭和二十九年八丈島の七カ村が大同団結して、八丈島町制を施行してから十周年は、東京オリンピックの年、池田町政の元、町制施行十周年記念式典が挙行された。終了後、都内のエージェンツ七十社を全国町村会館に招致し、東京都の広報の協力を得て、観光誘致懇談会を開催する等、観光誘致に努めた。

(終了後写真は池田町長を始め観光協会役員共に日光見学をしたものである)

二十周年記念事業式典は昭和四十九年、峯元町政の元、八丈町への功労者八三人を表彰、島内外から四百人が列席し、NHKの解説委員「山室 英男」氏の記念公演を始め、町のシンボルを決める等盛大であった。そして観光協会主催、八丈島新聞社共催による第一回フリージア娘のキャラバン隊を東京都内へ派遣し、銀座、新宿、渋谷で大人気をはくしたものである。写真は当時の女童(めならべ)たちである。

三十周年記念式典は昭和五十九年、奥山町政の元、功労表彰百五十九人、三根小学校体育館で開催された。この式典に提出するため、町民憲章の素案を作ることに私になるのである。時局講演では「政治構造を切る」題して飯島清代の辛口講演であった。

四十周年式典は平成六年、奥山町政の元、三百人の表彰者であった。多年、島民の健康と安らぎとの増進を図る上から温泉の開発促進があった。泉質の検査のため、一升瓶に入れた源泉を池袋の研究所に何度足を運んだことだったろうか。

五十周年記念式典は平成一六年、道徳町長の元、百八十人の表彰者であった。八丈町が誕生してから半世紀、式典は成長期を経て、内部に潜む病巣が表面化した。未だに様々な問題があり、経済大国の地位は揺らぎ始めている。本当に楽園の島として暮らすことが出来るのだろうか。記念講演で阿岸教授が提唱した八丈島の「タラソテラピー」の実現に努力したいものである。

*タラソテラピーの意味
生命の起源である海の恵みを体内に取り込むことによって身体の自然のバランスを取り戻すことを目的とした自然療法です。

身体機能の回復、リハビリテーション、健康増進のための療法技術。(海藻パック、海泥、海水ミネラルを用いた美容法など)



施行10周年日光にて



第一回フリージア娘キャラバン隊

戦後の小学校の行事

太平洋戦争の戦闘が八丈島の目の前に迫った時に終決した戦争、八丈島でも住民の多くが内地へ疎開し、また、疎開者の便乗した東光丸の撃沈があり、そして島の一部でも爆弾が落とされたり、空では戦闘機の空中戦の戦いもあったと聞く。島にも軍人があふれ、硫黄島の次は八丈島での戦いか、と予想された。そんな戦争が終結し、八丈島も平和の道を歩みだした。戦後の八丈島の三根小学校の行事を拾ってみた。

昭和二十年

八月十五日 大東亜戦争は無条件降伏を以って終結せり
九月一日 残留孤児を集めて、学校教育を再開す。入学式を行い学級編成をなす。

初一・二山丸訓導担任す。

初三・四、五雨森訓導担当す。

初六高全高橋訓導担当す。

この三氏は幸いに現地に居られたので素早くこの措置がとれたのである。

○児童数 一三二名

九月三〇日 東光丸遭難者六十六名の慰霊祭を宗福寺に於いて挙行す。

昭和二十一年

二月一八日 戦災児童へ衣類学用品の配給をなす。

三月五日 戦後初めての校外教授を行う。

三月十一日 故前校長矢部伴三氏、故前教頭持丸保次氏の慰霊祭を本校に於いて執行す。

三月二十五日 終了並に終業式を挙行す。

四月十九日 馬鈴薯の害虫駆除をなす。

五月二十八日 食料逼迫の状況下に於いて、本日より午後の授業を打ち切り、毎日食料増産教育に邁進することとせり。

五月三十日 マッコウクジラ神港に漂着したるを全児童見学す。

七月四日 水田害虫の駆除に奉仕す。

七月八日 天草の口開け。

十一月四日 運動会を開催す。

十一月十一日 杉田氏来校、童話会を開催す。

昭和二十二年

一月十日 書初展覧会を開催。

一月十三日 杉田先生の童話会を開催。

一月十五日
三月二十五日

四月十一日

四月十六日

五月二十日

七月五日

七月八日

七月十二日

七月二十九日

八月二十六日

十月十四日

十一月三日

十一月二十七日

開校記念式挙行、学芸会開催。
修了終業式挙行。

二十二年度より六・三・三制による新教育発足。よって高等科は二十一年度を以って最後とする。

始業式入学式挙行。

従来の国民学校は廃止され、三根小学校と称す。併設されてあつた高等科は新制中学（富士中学校）へ入学することとなる。

故前校長矢部伴三氏の埋葬儀執行せらるるにつき全校参加す。

校外教授を行う。

天草の口開けにつき、上級児童採取実習に参加す。

八丈島定期船、黒潮丸竣工し、初航海につき、全校児童見学す。

水泳大会を神港に開催す。

水田害虫駆除作業に六年児童参加す。

スリップの配給をなす。

全校児童にD・D・Tを散布す。

秋季運動会を開催。

全校校外教授を行う。

昭和二十三年

一月十五日 開校記念式並に学芸会挙行。

三月五日 六年生富士山登山方々記念植林の手入れをなす。

三月九日 全校校外教授を行う。

三月十五日 修卒業式挙行：新制小学校の第一回卒業式。

四月二十六日 全校校外教授を行う。

五月五日 子供の日、小運動会を開催す。

六月十日 小学芸会を玄関を会場として行う。

七月九日 小展覧会を開催す。

七月七日 底土海岸に於いて水泳会を開催す。

九月十一日 防火避難訓練を実施す。

十月四日 校外教授を行う。

十一月三日 文化の日、運動会開催。

以上戦後、四年間の三根小学校の行事を掲載。（三根小学校創立百年記念誌より引用）

八丈富士のお鉢巡り

三十六年度卒 峯元 信博

眼下に悠然と流れる白い雲、その下には草原や低木が混在し、更に山裾を下ると林へと広がりを見せ海に落ちていく。ここは標高854m、伊豆諸島で一番高い八丈富士の山頂だ。八丈富士には登った方も多と思うが、山頂の峰「お鉢巡り」をした方はどのくらいいるだろうか。私も過去に何度か山頂に登った経験はあるが、「お鉢巡り」は初めての試みであった。



溝もあるために慎重に足を運ばねばならない。しばらく歩いたところで右手の山の下に目を凝らすと垂土の先のホテル群と三根永郷が見えてくる。そして左手には岩とジャングルに覆われた崖が大きな円形の噴火口の壁となつて下に落ちており、その高低差は100m以上ありそうだ。上からは腹這いになって覗かないと怖くて下を見ることが出来ない。噴火口のジャングルは頂上の峰と違い強風を受けないせい、木々も高く鬱蒼として風に揺れている。しばらく見渡していると何か、その神秘性に魅せられてしまふ。やはり、ここは山の神の神聖な領域なのだろうか。そういえば確かに内輪山へ降りた噴火口の一角に神様が祭られているはずだ。そして道に戻るとこの辺からは砂利道、岩山に変わり、歩きやすい。また、夏の季節なので風もさわやかで気温も涼

しいため、心地よく、ハイキングも快適だ。私もハイキングは関東近郊の山々や高原等へ何度か行った経験もあるが、その自然の壮観な景色にはいつも圧倒される。しかし、今回はその山々に加えて海も望むことが出来る。何と言っても足元から眼下に望める広い海が地平線まで広がり、まるで天空の上を散歩しているかの様に浮いた気分も味わえるのだ。海に囲まれた山頂という自然環境の中で、ここでは普通の山歩きと違う素晴らしい「お鉢巡り」を体験できる。

この辺でコースの半分ほど廻っただろうか。一休みするため岩に腰かけ、お茶を飲みながら遙か先の峰の対面を見渡すとハイカーの人達が歩いているのも見ることが出来る。そして山頂の峰の中に目を移すと内輪山の平原も見え、中央には湿地帯となる池が広がり水面に太陽が反射し光っている。休息を終え、再び先を歩いていくと青い海に浮かぶ緑色の島が見えてきた。八丈小島だ。八丈島の西方、数キロ先に浮かぶ小島は八丈島と対となって常に横に並び、八丈島の景観の引き立て役になっている。山頂の上から見ても小島の景観は絶景で絵になる存在である。

そしてまた、先へと道を進むと足元が狭くぬかるんだ小道が続く、そこを抜けると再び歩きやすい草地に入る。お鉢巡りも終盤に差し掛かり、目先には大賀郷の南原海岸と八重根港が見えてきた。この先が八丈富士の山頂地点で、標高854mの碑があり、ここで本当に登頂完遂となる。足を止めて遠く目を凝らし青ヶ島を探してみると地平線の先に島の霞んでる姿は見る事が出来た。海は静かで落ち着いていてその雄大な景観に魅了される。海が間近に迫り、手を伸ばせば届くのでは、と思うほど紺碧の色が濃い。また、その青い色の広がりには心に解放感も与えてくれる、まさに、母なる海だ。

そして足を小道に戻して残りのコースを歩き続けると、ハイキングも間もなく最終地点だ。ここから先は足場の悪い上り下りが続き、手を使いながら進むことになる。大きな岩山や岩場の溝を通り、途中には洞窟も見ることが出来る。更に道は続き、穏やかな草地の下りへと変わった。程良い汗をかき、風をうけながら爽快な気分です歩き続けて1時間20分、漸く最初の地点に戻ることが出来た。天候にも恵まれ、青い空と紺碧の海を望み、そして山の緑に包まれ、最高の条件の下で楽しくハイキングを体験できた瞬間だった。

八丈島で小さい頃から海に親しんできた自分は、山との触れ合いは学校の遠足くらいであった。その後の時々の帰郷の際も、やはり行くのは海であった。しかしこうして富士山の山

頂を巡ってみると今まで気づかなかった新たな島の自然の魅力を発見することが出来た。そしてこの「お鉢巡りハイキング」は今回の帰郷の中では思っても見なかった故郷からの嬉しいプレゼントであった。



会員便り

三根小学校時代の思い出

数年前、帰省した時の事、三根小学校の脇道で「あび」（山苺）が色づいて垂れているを見つけました。丁度、通

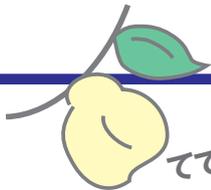
りかかった3～4年生位の男の子3人に「おいしそうね、とっていかないの？」と話しかけたら、変な顔されて走り去りました。（あ～今の子は食べないんだ）と認識。

私達が小学校の頃は、今と異なって、美味しいおやつなどない時代。でも、海に山に食べ物（おやつ）を求めて走り回ったあの楽しかった思い出、今でも私の宝です。春になると、「びんご（草の穂）」、「いたどり」、「ねぶたち」、夏には「ようも（やまもも）」、「かの実（桑の実）」、「あび」、「さくらんぼ」。海からは「シタダミ」を取り、秋には何といても「椎の実」、そして「ちぎの実」、「浜グミ」！今では考えられないでしょうね。

勿論、たべる楽しみもありましたが、この時の仲間との遊びや探検は今の同期生とのつながりになっていると思います。（ちなみに、この時代の私は家族に“みきすてねっこめ”と呼ばれていました）。私たち同期は「三五会」という会を作り、年に一度、夏に同期会、また、有志を募って旅行を北海道から九州まで実施しています。

私も、八丈島を離れ、すでに五十五年、でも、帰省するといつも温かく迎えてくれる仲間がいます。ふる里、八丈島は私の自慢です。また、「三根会」は同期生に会えるだけではなく、先輩、後輩、親せきや近所だった方達にも会う事が出来る素晴らしい場になっています。

会長さんはじめ、幹事の皆さんの方のご苦労あつての「三根会」です。本当にありがとうございました。



てんくんくんもあるじゃ。

31 年度卒業（S.H）

三根会に参加して

早いもので私たち同期は70代に入りました。小中学校の遠足では、八丈富士や三原山へ、夏は底土港で生み遊びをし、二学期を迎えたものです。

小さな島とは言え、自然に恵まれた中で育った私達は里芋や明日葉からも健康を戴き、海の幸にも恵まれていました。

島から離れ、それぞれの道は違いましたが、今、またこのように三根会でお会い出来る事は素晴らしいことです。私は福祉や健康づくりに関わっていますが、思いますのに齢を重ねるごとに筋力や心身の活力が低下する状態（フレイル）を予防するための適切な運動や食事について、また薬の重複による副作用等（5種類以上服用しているケース「ポリファーマシー」という）、医師に相談しましょう。日々の生活に気をつけ、これからも70代、80代と元気でお会いできることを願っています。

30 年度卒 山崎 秀子

近況報告

定年退職後は島でのんびり暮らすと思った私は7～8年前から母の介護のため、島と埼玉と行ったり来たりが続いておりました。数年前に母が骨折して介護休暇を取って、島で2カ月位介護生活しました。その後、私が定年退職になり島でのんびり暮らすことが出来ると思っていた矢先、母が病気で倒れて入院、リハビリを行いました。歩行できなくなってしまい、現在は老人ホームで面倒を見てもらっています。

3年前には私自身も病気で倒れて救急搬送、幸いにも現在は元気になっています。つまらない話をしてしまいましたが一月に島の人に返り咲きました。母が家に居ない事は寂しいですが、夢（島に帰る）がかなった？私です。

(T.Y)

タイムマシンの風に乗って

ぼくは5年生になってからしゅくだいをやってこなくなりました。なまけてばかりなのでこれからやってくるようにします。だから先生もしゅくだいをいっぱいださないようにしてください。それから校舎の中であばれないようにします。

文集より S・A

八丈町応援歌

作詞・作曲 浅沼 高三
唄 高ジヨ一

一、怒涛逆巻く 黒潮に 集いし吾らは 島の民

辛苦の歴史 耐えぬいて 共生の力 惜しみなく
次代に繋ぐ 夢がある オ一オ一伸びゆく八丈栄あれ

二、秀麗富士を 仰ぎ見て 集いし吾らは 島の民

たゆまず進む 道こそと 共生の汗 惜しみなく
次代に渡す 夢がある オ一オ一伸びゆく八丈栄あれ

三、緑り織りなす 三原山 集いし吾らは 島の民

育み励む 生産に 共生の望み 惜しみなく
次代に拓く 夢がある オ一オ一伸びゆく八丈栄あれ

三根会 シヨメ節 三十年代卒 根木谷 サチ子

一、イヤ一S年に一度の七夕よりも

逢えてうれしきや 三根会 シヨメイ シヨメイ

二、イヤ一S叔父や叔母やら、いとこにほうべい

話もつきんなか 三根会 シヨメイ シヨメイ

三、イヤ一S 出ろは島酒 八丈ことば

踊れ シヨメ節 三根会 シヨメイ シヨメイ

四、イヤ一S 来年(ツギ)も 逢おごんよ 元気でおじゃれ

名残り惜しげじや 三根会 シヨメイ シヨメイ

第35回八丈島三根会総会

- 12:00 三根会総会開催 (司会 幹事長 峯元 信博)
会長挨拶 会長 小宮山 肇
会計報告 会計 佐藤 千鶴代
会計監査報告 会計監事 須藤 保
新役委員紹介 会長より全役員
- 12:15 懇親会 (司会 副幹事長 小宮山 稔)
来賓挨拶 八丈町町長 山下 奉也
来賓挨拶 八丈町議長 土屋 博
来賓挨拶 三根小学校校長 鈴木 勲
- 12:30 乾杯 名誉会長 高橋 朝見
<歓談>
- 13:30 山本元富士中学校校長挨拶
- 13:50 お笑い芸人 スモーキードライ
恩師紹介 会員有志
学年クラス紹介 21年度、43年度
- 14:10 懐かしのフォークダンス 有志全員
- 14:20 くじ引き大会
<歓談>
- 15:00 校歌斉唱 (全員) 会員有志
万歳三唱 副会長 太田 中
終了

三根小学校校歌

作詞 野口雨情
作曲 藤井清水

一、朝日はのぼり輝やきて

八丈富士の峰高く

仰ぐわれらの三根校

仰ぐわれらの三根校

二、剛健不撓の精神に

流れも強き黒潮の

沖ゆくごとく進みなん

沖ゆくごとく進みなん

三、磯うつ浪の絶ゆるなく

朝に夕べにいそしみて

いざもろともに励みなん

いざもろともに励みなん

協力

・八丈町役場

・八丈町立三根小学校

・八丈町立富士中学校

表紙紹介

表紙写真は合成です。神止山・八丈富士と為朝風のイメージをお楽しみ下さい。

為朝風協力：沖山久則

編集：八丈島三根会事務局 電話 03-3330-7260 担当：峯元・鈴木 メールアドレス umi.nm.0925@gmail.com